

Y. J. L. S.

美肌通信 Vol. 11.



## <大震災後に思うこと>

私を含め人間はよく文句を言います。職場でもとかく仕事をしない人ほど、その傾向は強り様に感じます。私は<sup>★</sup>今から文句を言いたくなったら、その前に「素直」になつてみようと思います。はたしてその文句は客観的に正しいかどうか。その裏に仕事を放棄していることが隠されてりないかよく考えてみようと思います。それが「大切な」と思っています。

昨今、私の子供に対する教育の面でも「優しさ」の名のもとに実態は「安楽さ」「ことなき主義」に傾き我が子の言動を見て見ぬふりをし、結果墮落させている感が否めません。子供もいずれ大人になり親になるでしょう。その時に私は強い大人になつて欲しいと願っています。私の願う強い大人とは、今回の大震災の様な我が身に振りかがた受難にも耐え抜ける様な強い精神力を持つた人間ということです。

しかしながら、自身振り返って見れば直しても、

最近<sup>「文句を言わす」</sup>耐える力、素直に受け止める力に欠けていると  
思うのです。この子が大人になった時、社会の重圧に  
耐えられるか否か、親として教育方針に誤りが  
ないだろうか、考えてしまいます。少しずつ社会の  
厳しさや責任感というものを教えなければなら  
ないと思います。

厳しさに耐えたものだけが最後に花開くもの  
です。大きくジャンプするためには、一度しゃがま  
なければなりません。何事もくじけそうになった  
時、己の最初の希望を思い出して初心に立ち  
帰ることが必要なのでしょう。

日本人は歴史上、開国に始まり大敗に終った  
太平洋戦争と今回の大震災など、数々の国難とも  
言われる未曾有の危機を乗り越え、その都度  
大復興を成し遂げています。今回の大震災でも  
日本人はパニックを起さず事態を冷静に受  
け止め、買い物の順番を整然と待つ様子を見た  
外国人から、感嘆の声が聞かれ、同時に日本人の  
その姿勢を賞賛しているとまで言われています。

「耐える力、受け止める力、が大事なので



相田みつを 先生の時と重ねさせし戻ります。

いのちの根

なみだをこらえて

かなしみにたえるとき

ぐちをいわずに

くるしみにたえるとき

いりゆけをしなうで

だまうて批判にたえるとき

いかりをおさえて

い、と屈辱にたえるとき

あなた之眼のいろが

ふかくなり

いのちの根が

ふかくなる

私の空想ですが、きっと神様は、その人その人に困難を与えてきます。しかも耐えて立ち上がれるかどうかのギリギリのラインでの困難を。そうです私達はきっと試されているのです。それを乗り越えられた時、大きく成長するのじ、少なくとも私はそう思います。

まだ"まだ" 親として 院長(経営者)として  
未熟な人間のひとりごとです。

院長：刀川